

年末行事（餅つき）



来賓挨拶（協力会会長 針谷 様）



駐屯地司令挨拶



来賓挨拶（後援会会長 青木 様）



乾杯



祝い餅つき  
（協力会会長・駐屯地司令）



各部隊等を慰勞

令和元年十二月二十日、駐屯地において一年末行事が行われた。駐屯地司令は各部隊等が餅つきを行う中、巡回し一年の労をねぎらった。引き続き、駐屯地食堂において、古河自衛隊協力会会長をはじめとする多数の来賓を招待して懇親会を行った。会では当初、駐屯地司令が挨拶し、来賓は、協力会会長（古河市長）針谷 力様、後援会会長 青木正夫様から祝辞を頂いた。

会のなかまは、来賓と駐屯地部隊長が協力しての祝い餅つきが行われ、会場は大いに盛り上がった。引き続き参加者一同は、年越しそばに舌鼓をうちながら、駐屯地の一年の活動を振り返るスライドショーを話の肴に、一層の懇親を深めた。また、各部隊等は、隊員家族との餅つきと会食で、楽しい時間を過ごし、年末行事は盛会のうちに終了した。



成人の主張



謝辞（大嶽士長）



新成人抱負発表（釜形 1 士）



祝賀式

令和二年一月十日、駐屯地は新成人祝賀行事を実施し、新成人十六名の前途を祝った。祝賀式は隊員家族が見守る中、全員での国歌斉唱、駐屯地司令式辞、協力会会長祝辞、新成人代表挨拶と続いた。代表挨拶では、第一〇一施設器材隊架橋中隊 釜形一士が「社会人としての責任と自覚を持つ」と、誓いと抱負を述べた。

祝賀式終了後の祝賀会食では、隊友会古河支部長 内藤 勝義様の祝辞に引き続き、第三〇一ダンブ車両中隊 佐藤士長の先輩隊員を代表しての激励など、多くの祝福を受けた。

最後に第三三七高射中隊 大嶽士長が「感謝の気持ちをお忘れず立派な社会人になるよう努力します」と謝辞を述べ、会食は終了した。

続く昼休みには一号営庭で成人の主張を行った。新成人は、駐屯地隊員が見守る中、個人の目標や両親への感謝を大声で発表した。午後は、市内の美術館において祝賀行事の最後となる心に残る行事として篆刻を実施した。新成人は、自ら選んだ一文字を石に彫り、成人の記念とした。

祝！新成人祝賀行事

# 転入者の紹介

十二月二十日付で第一施設団高級幕僚として、佐田二屯地に転入した。



第1施設団  
高級幕僚  
太田 2 佐

# 国際活動帰国隊員紹介



教育について調整する本森1尉(左から2人目)



ジブチ軍学生に器材説明する松村2曹



帰国報告する本森1尉(左)と松村2曹(右)

十月三日から十二月十六日までの間、「ジブチ災害対処能力強化支援」に、第一〇一施設器材隊特殊器材中隊から本森一尉、松村二曹の二名が参加した。ジブチ国内では、十数年振りの豪雨により、教育が一時中断されることもあったが、ジブチ軍との連携により、教官・助教としての任務を完遂した。

# 新成人紹介 祝！16名



関東補給処古河支処  
岡田 士 長



関東補給処古河支処  
半田 事務官



関東補給処古河支処  
山崎 事務官



第102施設直接支援大隊  
曾根 士 長



第102施設直接支援大隊  
滝澤 士 長



第102施設直接支援大隊  
濱田 士 長



第102施設直接支援大隊  
鈴木 士 長



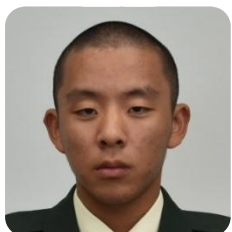
第337高射中隊  
大嶽 士 長



第337高射中隊  
齋藤 1 士



第320基地通信中隊  
蜷川 士 長



第101施設器材隊  
伊藤 士 長



第101施設器材隊  
根元 士 長



第101施設器材隊  
深田 士 長



第101施設器材隊  
釜形 1 士



第301ダンプ車両中隊  
安杖 士 長



第301ダンプ車両中隊  
齋藤 1 士



# 第301ダンプ車両中隊



地盤整地作業の状況

九月二日から十月三十一日までの間、小隊長以下十六名で古河駐屯地構内排水設備整備支援を実施した。一号営庭にクロスウエーブを埋設し、営庭の排水機能の向上に寄与した。この整備支援により、測量能力、施設機械操作能力、施設基礎作業及びダンプ作業能力を向上させた。



骨材を卸す特大ダンプ

十一月十二日から二十一日までの間、秋季東富士演習場定期整備に参加した。各地区整備隊に所要の特大型ダンプ及び施設器材を配属、各地区整備隊の指揮の下、一件の事故も無く演習場機能の維持・向上に寄与し、任務を完遂した。

# 第102施設直接支援大隊



野外炊具整備

十月十三日から二十二日までの間、東富士演習場整備支援隊として、当該整備に参加した。本整備支援隊では、平素の直接支援態勢を保持しつつ、全般支援大隊の一部の支援(需品整備機能)を受けて、被支援部隊の装備品の高可動率維持に寄与した。



射撃競技会

十月十九日、富士駐屯地において、射手六十五名、勤務員十六名の編成で大隊射撃競技会を実施した。本競技会では、自衛官として必要な射撃技能の向上を図るとともに、団結の強化及び士気の高揚を図った。

# 第320基地通信中隊 古河派遣隊



厳しい監視の中、実施する隊員

十二月六日、寒空の下、大隊統制の体力検定競技会を実施した。古河派遣隊をはじめ独自の練成を行った各派遣隊は、共通種目における合計点の成果を出すべく汗を流した。



学科検定直前の隊員

基地通信隊は、特技変換に伴い、それに応じた学科、術科の検定を実施した。また、令和二年三月末に「東部方面通信群」から「東部方面システム通信群」に変わるが、それに合わせた各班におけるOJTも盛んに行い、部隊改編及び有事に備えている。

# 第337高射中隊



目標に向け飛び立つ中SAM



中隊長による地点指示

十月三十一日から十一月二日までの間、米国マクレーガー射場にて行われた中SAM部隊実射訓練検閲を受閲した。訓練参加者はこの一年間練成を積み重ね、年度当初の目標である『日本一の成果獲得』を目指し、本検閲に臨んだ。結果は要撃成功、優秀、日本一の成果を獲得し、栄光を掴むことができた。これに満足することなく、さらなる精強な部隊を目指し、引き続き練度の向上に努めていきたい。

# 曹友会



白熱した試合の様子



開会式

十二月十四日、駐屯地曹友会は「古河駐屯地司令杯小学生バレーボール交流大会」を開催した。本大会は、近隣住民との交流を図り、自衛隊及び駐屯地に対する理解と信頼を向上することを目的として近隣小学生を招待して実施した。駐屯地司令の挨拶の後、小学生代表による力強い選手宣誓で幕を開けた本大会は、二ブロック八チームによるリーグ戦で、白熱した試合を繰り広げた。子供たちは試合の間に、売店や戦車等の見学を行い、自衛隊の一端に触れた。

# 第341会計隊



万歳三唱で見送られる田倉曹長

十一月五日、霞ヶ浦派遣隊に所属する田倉曹長が三十有年の永きにわたる自衛隊勤務を終え定年退官を迎えた。残された我々は、改めて身を引き締め、田倉曹長が築いてきた軌跡を継承していき



練成に励む長谷川士長

長谷川士長は八月、初めて陸曹候補生選抜試験を受験し見事一次試験に合格、九月三十日より二次試験に向け練成が始まった。十月二十八日から二十九日には東部方面会計隊による二次試験が実施され、日ごろの練成成果を遺憾なく発揮し見事二次試験に合格！ 方面の三次試験に進んだ。